

甲南女子大学図書館 上野文庫本 『白山草木志』の紹介

——「雷鳥」の項について——

一、『白山草木志』について

甲南女子大学図書館には、故上野益三博士（以下上野と敬称を略す）により寄贈された上野文庫と称される貴重書コレクションがある。筆者は、その膨大な貴重書の整理・調査に参加した。それらの蔵書の中に本著があった。

この本に関しては、上野自らの解説が『博物学短篇集（下）』（注1）にある。

『白山草木志』（はくさんそうもくし）上下二巻、『白山の記』一巻は、紀州藩士で博物学者、畔田翠山（くろだすいざん、一七九二—一八五九）の著である。『白山の記』は『草木志』の付録の体をなしているけれども、白山の登山記ならびに山岳志として、立派に独立の一書をなし得るものである。

翠山は白山のフローラを叙述すると同時に、白山自体の自然について詳述し、これら両書は両々相俟って白山の博物誌をなす構想である。この構成の着眼は当時としては著しく進歩的な博物学であった。

と解説し、この二篇をこの集に収めた意図について、「著者自筆の原稿本が複製の機会を逸するのを恐れたからである」としている。

二、目録と本文記載の相違

上野は前記解説の中で「博物学者翠山は、山中で見た八種の鳥獣その他を記録し

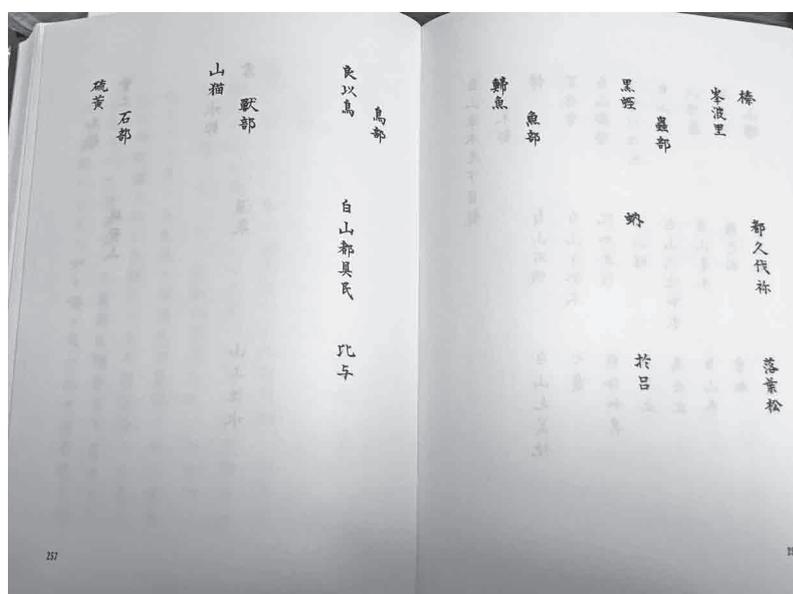
た。特に、羅以鳥（雷鳥）については詳しく記述した」と記す。『白山草木志』の中で、「雷鳥」についての記述は、下巻にある。

目録には確かに八種あるが、本文には「比与」の記述はない。また、前記の復刻本には「雷鳥」の項は三行ほどであり、他の項、例えば次項の「白山都具民」は二行。それほどの差はなく、とても詳しいとは言えない。

そこで、以下に復刻本と国立国会図書館所蔵の貴重書二冊（注2）さらに、和歌山県立図書館本（注3）、そして自筆稿本を比較しながら、その相違をみたい。

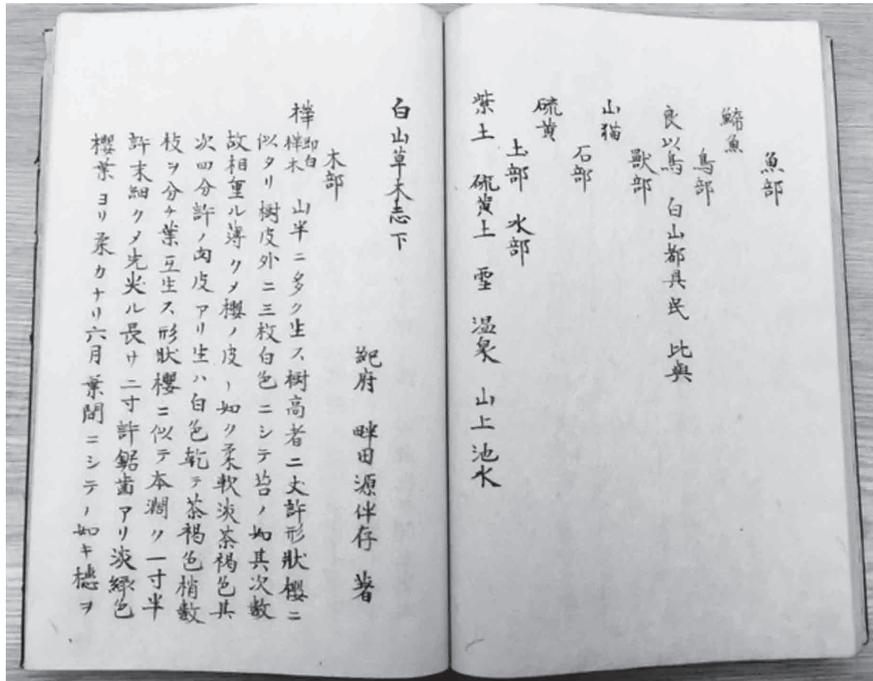
〈目録部分〉

①復刻本

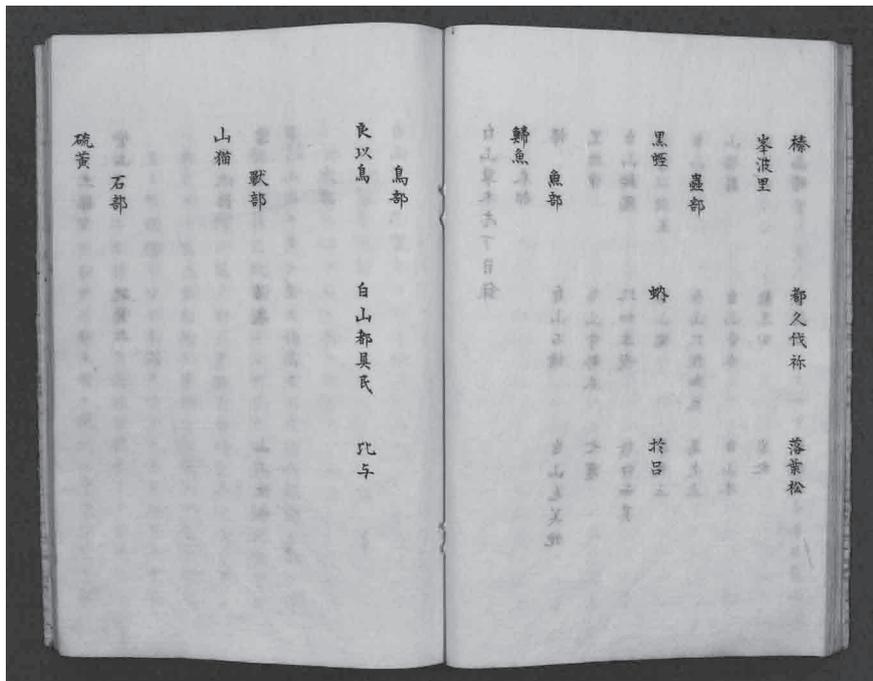


武部智子

④和歌山県立図書館本

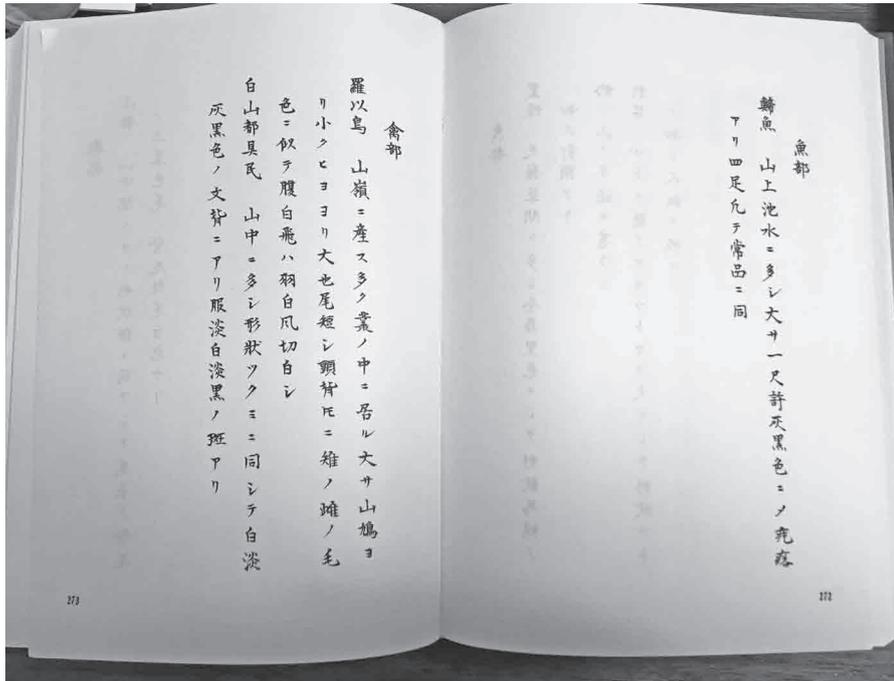


⑤自筆稿本

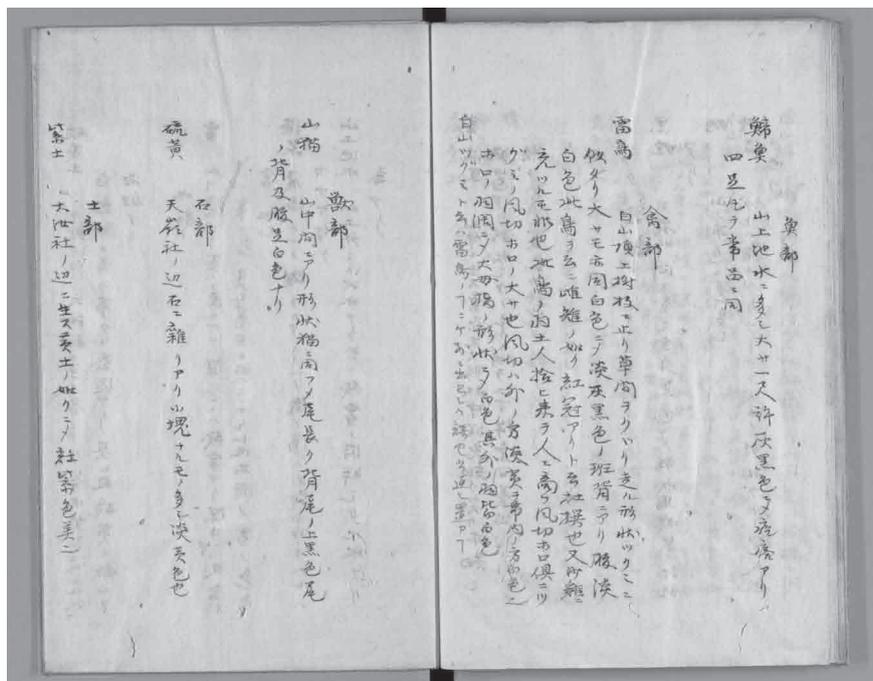


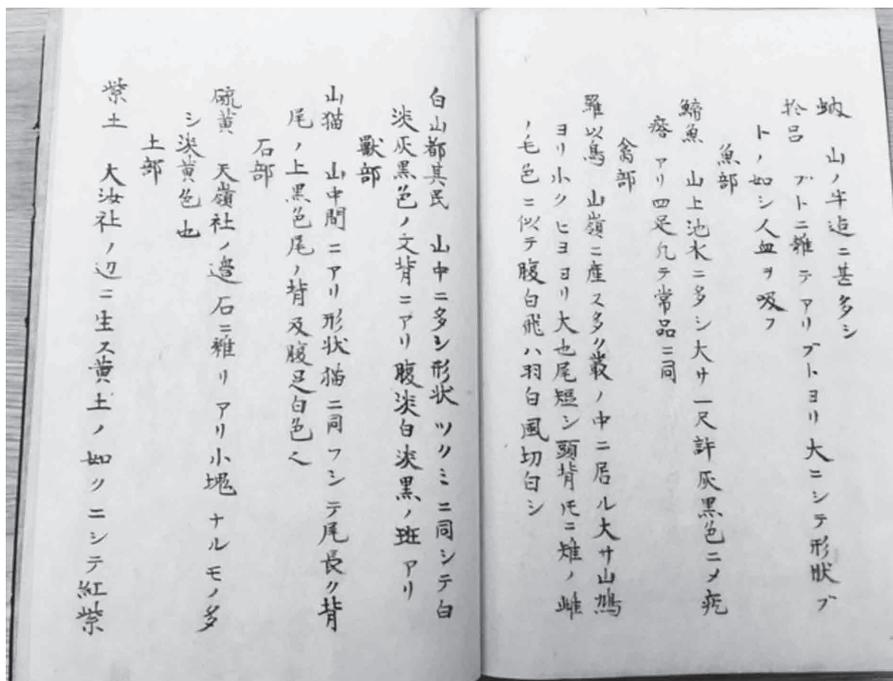
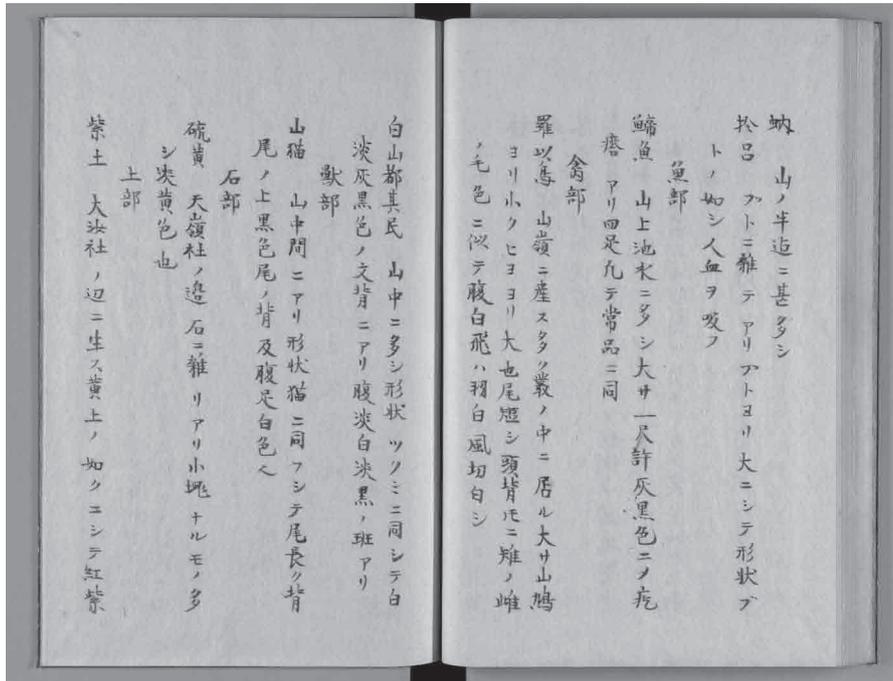
これらは全て同じ項目が八種、順も同じく並んでいる。特に禽部は「良以鳥」と「白山都具民」「比与」とある。しかし、本文には全本「比与」の項は記述されていない。以下に掲載する。

①
〈本文部分〉

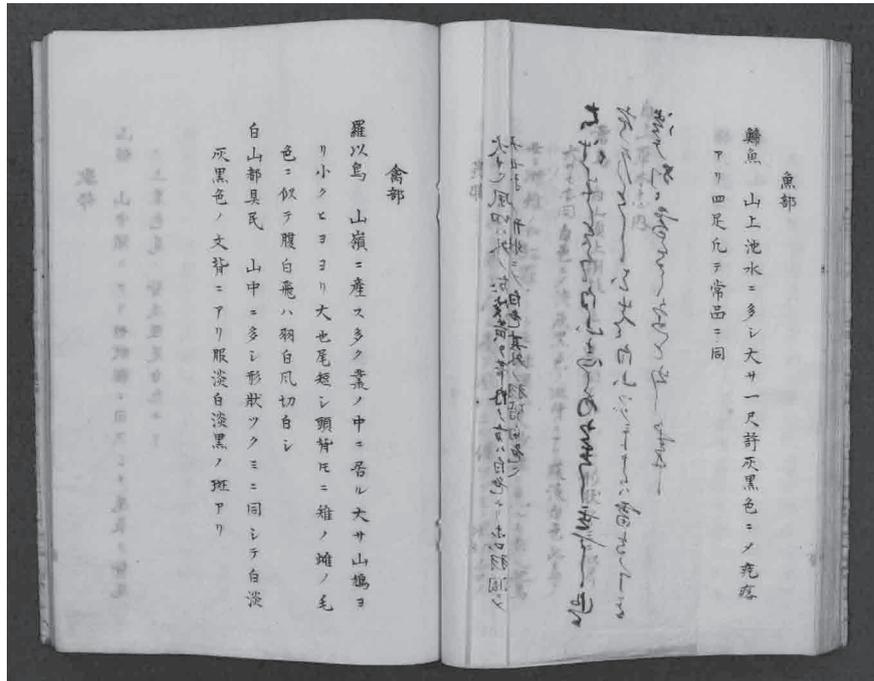


②





⑤

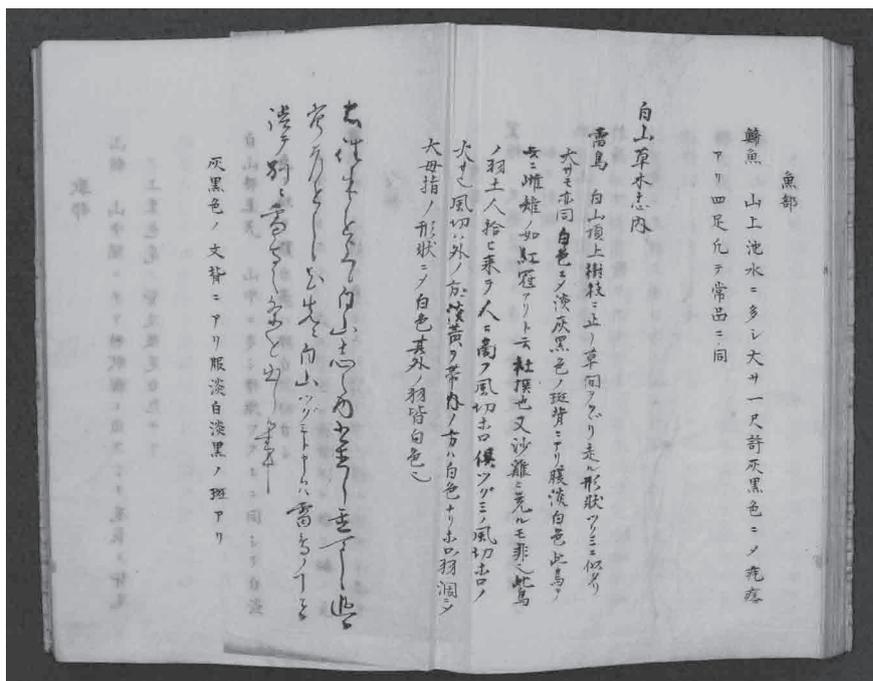


三、「雷鳥」記述部の相違

前掲の各本を一覧すれば、「雷鳥」についての記述にかなりの差があることは一目瞭然である。①復刻本と同様②③国立国会図書館本二冊、④和歌山県立図書館本を比較すると①と③④の「羅以鳥」とは全く同じである。①は上野が、翠山の自筆稿本である甲南女子大学上野文庫『白山草木志』を掲載しているため、③④は⑤自筆稿本を写したと考えられる。

ところで、①と⑤自筆稿本には異なる箇所がある。魚部と禽部の間の余白部分に一葉の貼紙があり、そこには「雷鳥」について記述されている。

⑤自筆稿本
〔貼紙部分〕



この記述は②と同内容である。つまり、②の伊藤文庫本は自筆稿本の貼紙部分を写したと考えられる。

この記述からは、上野が解説するところの「詳しく記述した」ことが伺える。しかし、上野はこの部分の欠けた本を複製本とした。そのときには、自筆稿本にはこの部分が無かったと考えられる。そして解説時には、この貼紙の記述を知っていたこととなる。この一葉は翠山のメモ書きのようなものであったのか、丁の間に挟み込んであったのかはわからないが、後に上野の手によって貼付されたと思われる。

四、甲南女子大学図書館 上野文庫本の来歴

見返しには、上野の自筆にて

畔田翠山自筆稿本

堀田美恵氏恵与

と記されている。堀田美恵氏は翠山の唯一の門人と呼べる人物である堀田龍之助の孫床子氏の三男健男氏の妻である。

『畔田翠山伝』（注4）によれば、上野は「ふとしたことから（堀田）龍之助の孫にあたる堀田床子さんと知り合いになり、翠山の手紙を借覧する機会を得た。その祖父龍之助の事蹟をしらべる便宜を与えられているうちに、畔田翠山について多くのことを知ることができた（『博物学史散歩』）（注5）という。

堀田龍之助については、上野の『博物学者列伝』（注6）に詳しく述べられているが、ここでは、『日本博物学史』（注7）の年表の記録を記載しておく。

- ・ 一八一九年、文政二年巳卯／七月二十八日、堀田龍之助大坂堂島に生まれる。父、綿屋九郎兵衛、のち西洋製菓業。龍之助は業を継いだ。が、博物を好み、和歌山の畔田伴存に師事する。

- ・ 一八八八年、明治二年戊子／四月二十七日、堀田龍之助、大阪で没する。年七〇。北区中津南浜墓地に葬る。積乗翁。文政二年（一八一九）七月二十八日生。大阪にて西洋製菓業を営む。畔田伴存（翠山）の門人となり、家業の傍ら博物学の研修に励む。翠山の『水族志』が図を伴わないのを惜

しみ、自ら魚を写生して『水族図譜』をつくる（未刊、大阪市立博物館蔵）。

前掲の『畔田翠山伝』によれば、翠山の死後、生活に困窮していた遺児・房楠は父翠山の遺稿や、書籍をはじめ、畔田家に代々伝わる什器類までも売却していたらしい。当時、房楠は龍之助にも遺品売却の手紙を送っている。龍之助は、恩師の遺児の依頼であり、何より遺品の散逸をおそれ、翠山遺愛の品々を買取ったようである。本著も或いはそこに含まれていたのかもしれない。

ともかく、『白山草木志』も堀田龍之助の手元に渡った。

後に、龍之助の遺族から上野に贈られ、甲南女子大学図書館に収められることとなった。

なお、堀田龍之助の遺品として、翠山が白山で採集した植物類の錯葉は、現在、大阪市立自然史博物館の標本コレクション「畔田翠山さく葉帳」の中に保存されている。

五、まとめ

以上のように、畔田翠山自筆稿本である甲南女子大学図書館 上野文庫本『白山草木志』は、比較した国立国会図書館本二冊並びに和歌山県立図書館本の写本の基となっており、「雷鳥」の記述をめぐっては二種類の記述があり、それぞれの写本が存在することとなったと考えられる。

注記

注1 『博物学短篇集（下）』（江戸科学古典叢書 45）所収の畔田翠山著『白山草木志』（二二一～三四九頁）の解説八～九頁。なお以降、本著を複製本とし、①で画像を載せる。

注2 国立国会図書館デジタルコレクション古典籍資料には畔田翠山著『白山草木志』の写本が三冊ある。本稿では、以降、朱色表紙の伊藤篤太郎蔵書印のある上下合本の写本（特7―459）、伊藤文庫本を②、藍色表紙の上下巻二冊の写本（847―1336）の上巻を③とし画像を載せる。

なお、伊藤篤太郎は江戸期の医師、本草家でシーボルトにも師事し、種痘を推進し日本最初の理学博士となった伊藤圭介の孫。

注3 国立国会図書館の検索に載る、和歌山県立図書館蔵の写本。上下巻二冊。題簽及び

内題は『白山草木志』であるが、上巻は『白山草木志』上下巻一冊であり、下巻はいわゆる『白山の記』である。内題は『白山草木志 下』であるが、本題は「越前国福井ヨリ白山エノ道ノ記」とある。以降、上巻を④とし画像を載せる。

注4 銭谷武平著『畔田翠山伝 もう一人の熊楠』九頁。白山開山1300年にあたる平成二九(2017)年、白山平泉寺をたまたま訪れた筆者は、『白山の記』をふと思いついた。帰途、梅田の古本屋で「南方熊楠生誕150年」のポスターに目をやった時、この本が目飛び込んできた。今回本稿を書くきっかけとなった著書である。

注5 上野益三著『博物学史散歩』八坂書房 1978年9月 この部分の記述は、一二八頁をまとめて書かれている。

注6 上野益三著『博物学者列伝』八坂書房 1991年12月 注4に挙げた著書のあとがきの中で、銭谷は本著を参考にしたことにもふれている。

注7 上野益三著『日本博物学史』平凡社 1973年11月 四七一頁、六四四頁

参考文献

- ・畔田翠山著『白山草木志』上巻 国立国会図書館デジタルコレクション 古典籍資料 伊藤文庫本他 2017年10月17日アクセス
- ・畔田翠山著『白山草木志』上巻 和歌山県立図書館 2018年10月10日閲覧・撮影
- ・上野益三著『日本博物学史』平凡社 1973年11月
- ・上野益三著『博物学史散歩』八坂書房 1978年9月
- ・畔田翠山著『白山草木志』(江戸科学古典叢書 45『博物学短篇集(下)』所収) 上野益三解説 恒和出版 昭和五七年十二月六日
- ・上野益三著『博物学者列伝』八坂書房 1991年12月
- ・銭谷武平著『畔田翠山伝 もう一人の熊楠』東方出版(株) 1998年8月21日

Introduction to *Hakusan Somoku-Shi* —— On the part of “Thunderbird”

TAKEBE Tomoko

Abstract : The autographic manuscript of *Hakusan Somoku-Shi* written by Suizan Kuroda, a naturalist in the Edo period was found with a page attached on it, on which one of the known two versions of the part on “Thunderbird” is written. The manuscript in Konan Women’s University Ueno Collection and a reissued copy of the book differ in that the latter lacks the page. The present paper will present the results obtained on the difference by comparing the newly found page, the reissued copy and the written copies held by, mainly, the Diet Library.

Key Words : Suizan Kuroda, Thunderbird

抄録：江戸時代の博物学者畔田翠山によって著された「白山草木志」の自筆稿本に1葉の貼紙があることがわかった。それにはこれまで知られている「雷鳥」の記述における2種類の内の1つが記されている。甲南女子大学図書館上野文庫蔵のその自筆稿本と後世出された復刻本では、後者には自筆稿本の貼付部分が欠けている、という差異がある。本稿では、その差異について、当該貼付部分、復刻本、そして主として国立国会図書館蔵の写本を比較検討して得られた結果を紹介する。

キーワード：畔田翠山、雷鳥